



日南町の「道の駅にちなん日野川の郷」で、実際に使われている丸火鉢と箱火鉢の様子です。古来、日南町では「印賀鋼」を代表とするように、たたらによる製鉄が行われ、木炭が燃料として大量に生産されてきました。

たたら衰退とともに、主要な向け先は家庭用の製炭へと移りかわり、やがて燃料改革により炭の需要は極端に少なくなりました。いまでは町内に残る炭焼き小屋も随分と少なくなってしまうとの事です。

そして現在、環境に優しいエネルギーとしてバイオマスが見直されるようになってきました。間伐や製材で発生する未利用材を使った発電であったり、ボイラーなどの熱源の利用であったり、今まで利用されていなかった山の材が、エネルギーとして活用されてきています。

山の材を財とするために、効率よく施業し、運び出し、活用していく…そういう仕組みが求められています。山に関心を持つ人が増加し、山の手入れが進んでいく。そんな好循環が、いま必要とされています。